

自己点検・評価 岡山外語学院

法務省入国管理局の「日本語教育機関の告示基準」が平成 28 年より施行され、日本語教育機関の自己点検・評価が義務化されたことを受け、本学院においても教育水準の向上を図り、本学院の理念・行動指針・ミッション・経営指針を達成するため、毎年、教育活動の自己点検を行っている。令和 3 年度に引き続き、活動の状況について自ら点検及び評価を行った。なお、自己点検評価項目については、「日本語教育機関の告示基準解釈指針」、日本語教育振興協会「日本語教育機関教育活動評価 自己点検・評価票」を参考に作成し、それに基づき自己点検・評価を行った。

なお、平成 31 年 4 月 1 日と令和 4 年 4 月 1 日には、日本語教育振興協会の「日本語教育機関教育活動評価基準」に適合する教育機関として認定されている。また、過去 5 年間広島入国管理局より「適正校」に選定の通知をいただいています。

点検・評価実施日：令和 4 年 3 月 30 日

実施責任者：校長 鷹家 秀史

実施担当者名(役職)：田上伴則(学生部部长)、中島正恵(人材育成部部长)

1. 理念・教育目標について

<理念>

若者達の無限の可能性を信じ、情熱をもって日々研鑽し、進化する支援者となります。

叡智と勇気をもって、継続可能な組織体を実現し、多文化共生社会の礎となります。

理念は全体会議のたびに教職員一同で復唱している。

<行動指針>

より質の高いサービス業としての教育を目指し、地域との共生を通じて多文化共生社会の礎になるため日々深く広く考え、生き生きと行動します。

行動指針も全体会議のたびに教職員一同で復唱している。

<ミッション>

1. 学生の日本語能力の向上を図る
2. 日本語教育を通じて、
多文化の人々が日本の社会に溶け込む懸け橋となる
グローバルな視野を持つ人材を育成し、社会に貢献する
3. 業務領域を拡大し、留学生・就労者・生活者への日本語教育とレベルの高い日本語教師と職員を育成し、地域の活性化と多文化共生社会の実現を目指す

ミッションも全体会議のたびに教職員一同で確認している。

<学校経営ビジョン>

1. 理念の実現

多文化共生社会の礎となる進化する支援者及び継続可能な集団

2. 多様な教育ニーズへの対応

急激な環境変化、社会・学習者からのニーズの変化に即応できる日本語教育の提供と柔軟な組織運営

3. 質の高い日本語教育の実現

学生一人ひとりに寄り添い、質の高い教育を実現

4. 他組織・団体との連携

自治体・企業・教育機関・NPO・地域などとの協力体制の確立

5. 日本語教育の業務領域の拡大

留学・就労・生活の類型化に即した新領域に挑戦

6. ウィズコロナ下での安定経営の実現

学校経営ビジョンも全体会議のたびに教職員一同で確認している。

<学生心得>

1. 健康と安全を心がけます。

2. 法と礼儀を守ります。

3. 勉学に励みます。

4. 夢を持ち、一日一日を大切にします。

自分に負けない私になります。

学生心得は入学式の際、校長から訓辞があり、学生たちに復唱させるとともに、各教室に掲示してある

2. 入学者募集について

学生の受入れにあたっては、日本語学習の目的、日本語学習歴、経費支弁能力において問題のない学生を受け入れるという方針で行っており、継続的な日本語学習に支障のない学生を受け入れている。平成30年4月にアドミッション・ポリシーを作成し、募集要項に記載している。

適切な学生受入れを行うために、特定の国・地域に大きく偏らないよう、国・地域別に適宜受入れ定員を定めている。

英語、中国語、ベトナム語でパンフレット、募集要項を作成しており、インドネシア、スリランカ、ネパールの志願者に対しては英語で代用している。

エージェントの選定については、各国担当者が各エージェントへの聞き取り調査やホームページの内容に不適切な内容がないことを確認することにより選定を実施している。そして原則として現地に赴き、代表者、担当者と面談したのち、契約を交わしている。また、上記情報を収集し、各エージェントについて情報をまとめて、文書化をしている。

エージェントの選定方法・選定基準についても文書化している。

エージェントの募集活動が適切かどうかについては、現地エージェントを訪問し、募集活動を確認しており、このエージェントの募集活動を把握する方法、及び募集活動を把握した結果についても文書化している。各国の主要エージェントは15年以上の友好関係を維持している。

3. 入学者選考について

中国、ベトナム、インドネシア、ミャンマー、カンボジア、スリランカは原則として現地に赴き、試験・面接を実施している。それ以外の国・地域についてはZoomなどで必ず面接を実施している。

入学者の選考は岡山外語学院の選考基準に基づき、①面接試験、②書類審査により、人物、入国目的、勉学意思能力、経費支弁能力などを判定して行う。面接結果を「入学選考面接結果」に残している。

4. 納付金について

入学検定料、入学金、授業料その他納付金の金額、納付時期、納付方法、返金規定、及び学費以外に必要な費用を募集要項に日本語、英語、繁体字、簡体字、ベトナム語で明記している。

5. 学生支援について

進路指導については、進学担当者を2名置き、教務主任、各担任と連携しながら、進学指導にあたっている。

就職希望の学生が少しずつ増えているので、(株)アジアの風 キャリアサポートに就職支援担当者を配置し、就職支援にあたっている。また大学院進学希望者が増加しているので、大学院進学希望者向けの説明会、及び個別指導を行っている。

生活指導に関しては、入学直後に多言語による入学オリエンテーションを実施している。その際に当校作成の「学生便覧」を配布している。この学生便覧には学校生活に関する全般的な注意事項、日本語学習、日本での生活について必要な項目を網羅している。使用言語は英語、中国語、ベトナム語、カンボジア語である。

英語、中国語、ベトナム語、カンボジア語、ロシア語で対応できる教職員が勤務している。教職員は、日頃の相談だけでなく、生活相談、学生の心身の健康管理、事故・病気・怪我などのサポートがスムーズでできるよう「24時間対応の緊急連絡先も」学生に周知している。

欠席に関しては、新入生は1日の欠席で、その他の学生は連続した3日の欠席で家庭訪問を行っている。インフルエンザ、ノロウイルスの対応、その他の重篤な疾病や傷害があった場合の対応も文書化した。

資格外活動違反者を発生させないよう学生募集の段階から留学目的が明確で経費支弁に問題がない学生をしっかりと見極め入学させ、入学後は生活指導担当者が中心となり、

警察などと連携し、学生指導を行うことにより資格外活動違反者をゼロにすることを目標としたい。

6. 教職員について

教職員の業務内容は「組織図」等により明示している。教職員が所属する各部の年間達成目標を「事業計画」として作成し、学校運営の向上を目指すとともに、目標達成状況を確認しながら教職員評価の参考としている。また、各教職員の個別の目標を前期・後期それぞれ設定し、各自の目標達成の状況を部長が判断するようにしている。教職員の質の向上を目指し、研修等の実施及び各自の研修会への参加を促している。

7. 教育活動について

学習レベルに応じて日本語入門から上級レベルまでクラス分けを行っている。入学直後や学期の途中であっても、プレイメントテストを実施することにより、適切なクラス分けを行っている。また、J-Testなどの結果も参考にし、学習者の学習意欲を高めている。

各クラスには担任がおり、教務主任（人材育成部部長）と副部長とクラスの担当講師と連携しながら教育活動を行っている。1年に2回校長または主任教員による授業見学を行い、質の向上に努めている。

また教員研修を毎年実施してきたが、令和2年3月の講師研修会はコロナ禍のためキャンセルされた。令和3年3月には東京外国語大学の石澤徹氏をお招きして「語彙学習—効率的、効果的な語彙学習の方法、教師の役割、かかわり方」に関する講演、令和3年8月には西隈俊哉氏（一般社団法人日本語フロンティア 代表理事）をお招きして「『日本語ロジカルトレーニング』をもっとアクティブに使おう」に関する講演会を開催し、岡山県内の日本語教師にも声をかけて公開実施した。このほかにも、「新人教師研修」として、「教案補講」を実施し、また留学生対象に日本文化への理解を目的とした地域交流・文化授業などを定期的に行っている。

8. 教育施設について

校地・校舎は住宅地の一角にあり、近隣との協力体制を敷いている。校舎は築50年程度と古く、遮音性については令和元年4月に遮音性のあるパーティションを設置することにより改善を見た。

耐震構造への対応はできていないが、耐震構造のチェックに向けての検討などできる限り対応には努めている。

9. 安全・危機管理について

留学生全員、国民健康保険及び日本語学校留学生保険に加入し、病気やけがに対応できるようにしている。

毎月1回「安全衛生委員会」で安全・衛生・健康について審議・提言を行っている。この委員長は校長である。この会議では、学生の心身の健康管理についても重要な議題として取り上げられる。

毎年、全学生を対象にした「避難訓練」を実施している。今年度は10月29日に実施した。

10. 法令の遵守等について

平成30年10月までに法令遵守の担当者を校長とし、責任と権限を決めた。当校は、法令や関連基準等の規定を違えることなく運営しており、岡山県・広島入国管理局・日本語教育振興協会、その他関係官庁への定期報告等定められた報告も適正に遅滞なく行っている。

11. 財務について

当校の経営母体である学校法人アジアの風は、中長期的に安定しており、財務基盤は確立されている。新年度の予算・収支計画については、学校法人アジアの風の理事会・評議員会の場で審議され、承認を受けており、有効かつ妥当なものとなっている。

決算については、適正な会計書類を行い、公認会計士である監事による会計監査を受け、学校法人の理事会・評議員会の場で、監査報告がなされ、承認を受けている。

過去2年間のコロナ禍における入国制限の実施によって留学生の受け入れは大幅に制限され、収入は令和元年度の60%、30%ほどに減少したが、経営のスリム化や雇用調整助成金の導入により赤字をまぬかれた。

12. 地域貢献・社会貢献について

岡山県内の日本語教師の質の向上のために「瀬戸内日本語教師会」を作り、研修会・勉強会を行い、日本語教育機関及び日本語教育に携わる人材をつなぐネットワークを作っている。

2022年4月より、外国に起源をもつ親子の居場所づくりを目指して、任意団体INE（居場所づくりネットワーク）を立ち上げた。また公益財団法人「橋本財団」の助成金を頂き活動の活発化を目指して取り組みつつある。また、ボランティアの任意団体ONN（岡山日本語教師ネットワーク）を27年前に立ち上げ、在岡外国人在住者への日本語教育を毎週2回行っている。

また町内会を中心として地域ボランティア活動、特に「西川・枝川をきれいにし隊」には毎月30名程度の学生が参加してきたが、令和2・3年度には学生はコロナ禍のため参加できなかったが、職員は毎回出席している。地域運動会に教職員、留学生共に参加し、地域との連携を進めてきたが、コロナ禍のために中止した。

平成 30 年の「西日本 7 月豪雨」の被害を受け、学校が属する町内会（久山町）より洪水の恐れがあるときの緊急避難場所と提供してもらえないかとの申し出があり、令和元年 8 月に「災害時における一時避難場所に関する協定書」を交わした。

13. 組織について

学校法人の理事会の下に「経営会議」なる理事長の補佐機関を設け、学校法人全体の意思決定の助けとしている。この経営会議は月に 2 回行っている。そこで決定した事項に従い、校長以下各部の部長が日々の業務を総括している。

校長、各部長から成る「学校運営会議」を毎週 1 回行っている。予算編成に関して、執行ルールを文書化する必要がある。予算は各部の事業計画に基づき、校長が各部長と協議しながら、予算を作成している。

14. 学修成果について

留学生の学習成果は毎年 J-test によって、CEFR の A2 以上の学力を担保する取り組みを行っている。法務省は「日本語教育機関の告示基準」の第 1 条第 1 項第 4 4 号に基づいて「日本語能力に関し CEFR の A2 相当以上のレベルであることを証明する」必要があるとしているからである。

日本留学試験 (EJU) ・日本語能力試験 (JLPT) の結果などはすべて把握している。卒業後の進路も取得できる限り入学許可書の提出を受けており、すべて把握している。進学先、就職先を訪問して、進学後あるいは就職後の状況を可能な限り把握するよう努めている。

2022年度 組織図					
	最高顧問 遠立超 顧問 秋政	学校法人アジアの風 理事会	評議員会	監事	株)アジアの風 キャリアサポート
		理事長 片山) 副理事長 森下)		*副統括は2年任期	社長 森下)
経営会議 片山・森下・鷹家)		岡山外語学院 校長 鷹家)	学校運営会議 鷹家・大賀・松下・中島・田上)		企画推進部長 大賀)
総務部部長 松下)	学生部部長 田上)			人材育成部部長 (正)中島、(副)佐藤)	企画推進部次長 河合・佐藤)
財務 経理	留学生募集 林)	学生管理・支援 田上)	業務Ⅱ化 デジタル教材 矢野)	教務 授業	職業紹介次長 岡村)
研修	介護・看護 河合・李)	入管対応 奥田)	アルバイト寮 國方)	進学 検定 模試	地域貢献担当 岡村)
人事 勤怠	広報委員会 秋政)	学費徴収	Wawa・GAK・ZOOM	共通教材作成	
福利 厚生	広報 大坪・ゴック)	国内向け新企画 デジタル教材の開発			
日本語教師養成講座 420時間 ゼラーニング(サポーター) 実践日本語 教師派遣 編入・プライベートレッスン					
安全衛生委員会・同窓会・施設管理 岡村)					
式典 諸行事 (入学式・卒業式・終業式・短期研修・遠足・社会見学・スポーツ大会・スピーチコンテスト・卒業文集など)					
松下、下田	田上、河合、矢野、李、林、ゴック、 大坪、國方、秋政)、秋山)、奥田)			中島、松本、利守、齋藤、 佐藤、長畑、福田、塚本、 和田、谷野	大賀・岡村 佐藤)・河合)